

## 今月の BEST SHOT

毎日の学校生活の中から、BESTな場面を収めた写真をご紹介します！



### 秋休みを前に・・・

今回はテスト中の教室をカシャ！ 暁星は二期制なので、夏休み明けに期末テストがあり、9月に通知表をもらいます。

秋休みの2週間は体験や学習にじっくり向きあうことができる絶好のチャンスです！

## WELCOME TO KYOTO GYOSEI



## 暁星の夏

## 今月の RECOMMEND



- 京都暁星スクールフェア
- 10月12日(土)
- 暁星教育を知るプログラム
- ニューズ・ラット'海外研修
- 東北ボランティア(福島)
- 在校生・卒業生スピーチ
- 体験授業もあります！

2024 京都暁星高等学校

お問い合わせ : 0772-22-2560

e-mail : info@kghs.ed.jp



公式 WEBSITE



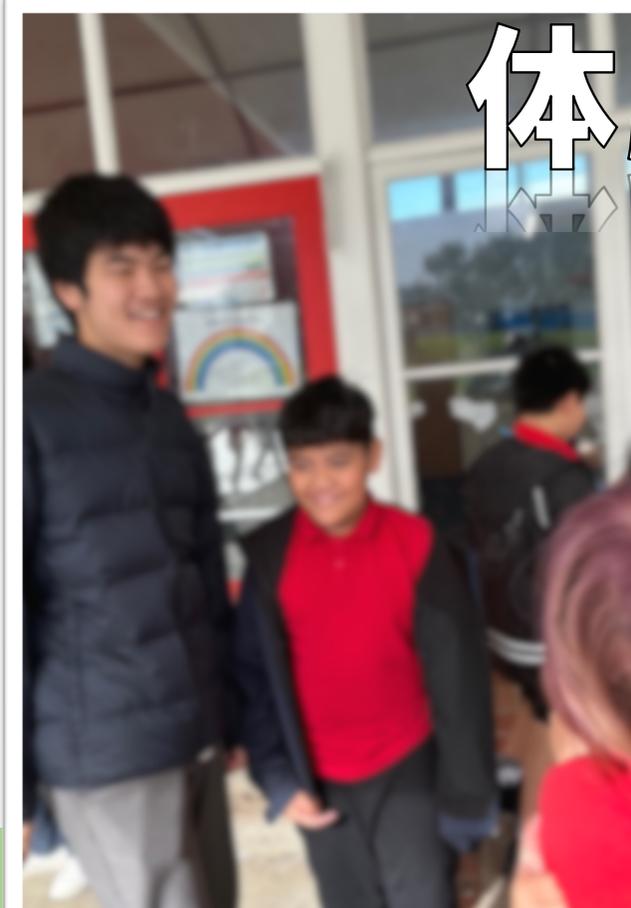
公式 Instagram

KYOTOGYOSEI\_OFFICIAL

学校の様子を定期的に更新しています！！

日々の学校生活や入試情報をたくさん更新中！

## 体験の夏



Vol.  
04  
2024  
Sep

## 参加しようと思った理由は？

Oさん:中3の時に来た暁星 OS で東北ボランティアの話を聞いて興味を持ちました。中学時代は何もしてこなかったから、高校では少しでも人の役に立つことをやってみたくて思っていた頃だったので、これだ！！って思いました。震災のことはテレビで知っていたし、復興も進んでいると思っていたけど、発表していた先輩たちは復興していなかったと言っていて、話を聞いただけじゃあわからない！実際に行きたい！と思いました。

Tさん:昨年の体験に姉が参加して、帰宅早々いろんな話をしてくれたのがきっかけです。3/11 当時の映像をテレビで見て、忘れてはいけない日だと感じていました。同時に最近は復興がどれくらい進んでいるのか？テレビに映ってない場所はどうか？知りたい気持ちで参加を希望しました。実際行けると決まった時は、嬉しい気持ちでいっぱいでした。そして今後同じことが起こるかもしれないし、それがいつ起こってもいいように、学んだことを家族に伝えて、自分に活かしたいと思う気持ちが強くなりました。

Oさん:私も普段、積極的に動くタイプではないですが、「これだけは絶対に参加してみたい」と思っていたので、メンバーに入れた時はとても嬉しかったです。家族や担任の先生も頑張っておいでと言ってくれました。

Tさん:行く前に南相馬市の話を聞いたり、今回は実際に被害にあった大川小学校へ行ったりするので津波の威力を知っておくために、津波の映像を見ておくなど事前学習を経て、出発しました。



Oさん 1年生  
橋立中学校出身



Tさん 2年生  
橋立中学校出身

## 中3生に伝えたいこと

Oさん:正直、今回のボランティアもうまくできるかな？と不安でした。でも先輩や先生方と5日間、一緒に過ごして結構話せるようになって嬉しかったです。私は暁星に入って本当に変わったと思います。いろんな人と関わって、いろんな体験をしています。このボランティアもそうです。学校生活のいろんな場面で人と関わることが増えて、今は楽しいです！！本当に行ってみて、本物を見ることで良かったです。

Tさん:帰宅してから、すぐに体験したことを話したあと、家族ともし丹後で震災が起こったらどうするかを話し合いました。友達にも話すつもりです。みんなが助かるように体験したことを伝えていくことが必要だと思っています。実際に東北に行って復興していない地域が多かったです。でも、それはテレビには出てきません。寄付や募金などの具体的な支援も続けて行きたいです。これを読んでいる人にも、実際に行ってみて自分の目で見て、今後の生活や家族との過ごし方を見つめ直すきっかけにしてほしいです。

# 東日本大震災 復興支援 ボランティア 特集

ニュースの映像や文字だけで解かったつもりになっていた…  
実際に行ったから「伝わるもの」「感じるもの」がある  
それがホンモノの体験なんだ…！！

Oさん:行く前は、今まで大きな地震を体験したことないから全くわからなかったけど、展示物を見て怖さがよくわかりました。事前活動で津波の映像を見ていたから余計に想像しやすかったのかもしれませんが。いろんな場所へ行きましたが、一番印象に残ったのは大川小学校です。ガイドさんの息子さんも震災で亡くなられたそうで、本当にお話が心に響きました。昔から地域のお年寄りたちは津波が来たら山に逃げると言っていたそうですが、最近ではそれを知らない人たちも増えていて、大川小のあたりは、津波は来ないと言われていたそうです。この知識のあるなしで亡くなった人、生き延びた人にわかれている事実には驚きました。当時、大川小は校長先生が不在でなかなか避難先が決まらず、いざ避難することになった時は、もうすでに津波が下まで来ていたそうです。決めた避難先も間違っていたために、多くの方が亡くなったと聞きました。

Tさん:そうだったね。大川小学校は教室に花やおもちゃなどたくさん飾られてました。ここは四人しか助からなかったと聞いて信じられなかった。ガイドの方も自分は仕事で別の場所において、自宅にいた息子さんに避難するように言ったけど結局、お母さんを待ってて亡くなってしまった。危険な時は自分の命を守ることが最優先と伝えたくてガイドになったとおっしゃっていました。もしそれが自分だったらどれだけ辛いだろう？同じくらいは解らないかもしれないけど、考えるだけでも辛いのに、実際に起こったことなんだと思うともっと悲しくなりました。

Oさん:あのあと実際に裏山の本当の避難場所に上ってみたけど、景色を見て本当にこの下まで津波が来たのかと衝撃でした。ガイドさんの自分の命を守ることの大切さの話を聞きながら、自分が息子さんの立場だったら？自分も家で帰りを待っていたかもしれないと考えていました

Tさん:私はもう一つの請戸小学校の方も印象に残りました。すべてが当時のまま残っていて、当時の地震の強さを実感しました。卒業式前の準備物などそのまま当時の状況を想像してしまい、ものすごく辛かったです。ここは〇〇教室だよと説明してもらって初めて解るくらい、ものが散乱し土に埋まってました。電気が下まで落ちている横のロッカーには名簿が残っていたり…自分よりも年下の子たちだからこそ、余計に辛くなりました。体育館には汚れたボールもあって、地震直前までの人の動きが想像できるくらいそのままだったのが印象に残りました。

Oさん:福島の避難地区ではバリケードがしてあって、個人が簡単に家に入れないようになっていたり、傾いたままの家やガラスが割れてる家もたくさんありました。

Tさん:カリタス南相馬の方(ボランティア団体)に聞くと、津波が終わって自分の家に戻ったけど、ぐちゃぐちゃで跡形もない状況にショックを受けて自殺された方もいたらしいです。家にはその人の人生や思い出が詰まっているからそれが無くなるのは本当に悲しいことだと思います。未だに地元に帰れない人もいます。南相馬防災センターで見た実際の波の高さのパネルは、数字だけで聞いて想像してたよりもはるかに高かった。津波って水だけが来るわけじゃない。がれきや泥も一緒にやってくると本当に怖いと思いました。

Oさん:本物を見るとやはり衝撃が大きくて、その気持ちを簡単には言葉にできないことが多かったように思います。それでもこんなことが実際にあったのかと、いろいろ考えさせられました。

Tさん:最後にみんなで歌った合唱曲「群青」は、最終日ということもあって歌詞と実際に見たことがリンクして泣きそうになりました。

## 一番、印象に残ったことは？